



受け継がれた街並みを後世へ

辻小の児童が土壁塗りに挑戦

10月7日、辻の町並みの保全と小学生に地元への愛着を持ってもらおうと、辻小学校の5・6年生18名が辻の町並みで土壁の修復を行いました。まちおこしグループ「辻まち応援団」と県建築士会三好地域会が初めて開催したもので、池田町在住の左官職人近藤清一さんらの指導のもと、生徒たちが壁づくりから、実際に壁に塗ってみるところまでを体験。生徒たちが塗った土壁は、左官職人らに引き継がれさらに土壁を塗り重ね、12月に漆喰で仕上げをし完成予定となります。辻のまちの風景を残したいとの思いから始まったこの活動は、今後も続いていくそうです。



夢をあきらめずに芸人へ

ムラムラカジトークが開催

10月3日、池田総合体育館で「ムラムラカジ〜芸人人生を語る〜」と題してよしもお笑い芸人で麒麟の田村さん、とろサーモンの村田さん、天津の木村さん、香川県住みます芸人の梶剛さん、阿南市出身でゆったり感の江崎さんがトークライブを行いました。

自分の夢をあきらめきれずに苦勞して芸人になったことなど笑いを交えながらそれぞれの方が話されました。約700人の来場者が耳を傾け、笑いの渦に巻き込まれていました。

最後には、プレゼントコーナーがあり、会場は温かい雰囲気になりました。



地方と都市双方の視点を持った人材へ デュアルスクール事業で箸蔵小に新しい友だち

10月15日から11月1日までの3週間、デュアルスクールモデル事業で、東京から吉田佳子さんとゆか子さんの姉妹が箸蔵小に転入しました。「第2の古里を作ってあげたい」というお母さんの思いからこのモデル事業を活用して三好市へ滞在しました。

デュアルスクールとは、地方と都市の2つの学校の行き来を容易にし、双方で教育を受けることにより、それぞれの良さを実感し、多様な価値観を見につけることができる「新しい学校のかたち」のことです。県内ではすでに4組の方が利用していますが、三好市での受け入れは初めてとなります。



理想のまちづくりを考えよう

ママたちが地域の魅力を共有

10月12日、生涯活躍のまちづくり事業の一環として未来の子どもたちのために理想のまちづくりを考えようと「未来へのまちづくり〜子どもたちの未来へ向けて〜」が三好市交流拠点施設真鍋屋で行われにし阿波地域に住むママたち15人が参加しました。

普段ママたちが住んでる町のいいところや不便に思っていることなどを話しあった後、子どもたちの未来を考えながら小さな地域だからこそ世代間交流を増やそうなど、ママ目線の考えや思いが次々と出され、交流を深めました。



自慢の歌声を響かせる

祖谷の粉ひき節日本一大会

10月6日、祖谷粉ひき節の歌声を競う「第14回祖谷の粉ひき節日本一大会」が東祖谷歴史民俗資料館伝習ホールで行われました。祖谷を代表する民謡を後世に伝承していこうと青少年少女の部をはじめ、大人から子どもまで全国各地から50名の民謡愛好者がエントリーし、歌唱力を競い合いました。総合優勝は徳島市からお越しの岡田まち子さんで、素晴らしい歌声に会場から大きな拍手が送られました。また、日本民謡歌手の坂崎守寛さんがゲストで登場し、舞台上に華を添えました。



むらのたからを受け継ぐ

生活改善グループ有瀬つくし会

9月17日、生活改善グループ有瀬つくし会が「徳島発!輝くむらのたから」に認定され、「絶景と山村文化の里あるせ」として徳島県庁にて飯泉知事より認定証が交付されました。

「むらのたから」とは、風土を生かした「食・景観・伝統行事」など地域の人々が守り伝え、交流や観光の拠点として、未来に向けて生きた「たから」として受け継いでいくことにより地域の活性化に資するものです。県はこのむらのたからと認定し、県内のみならず広く国内外に発信していきます。



かかしと一緒に大運動会

天空の郷かかしまつり開催

10月6日、東祖谷名頃のかかしの里で天空の郷かかしまつりが開催されました。

旧名頃小学校やその周辺らに展示された多くのかかしが来場者らを出迎えました。今年は「大運動会」をテーマに、地域住民と来場者とかかしによる運動会が行われました。パン食い競争や玉入れ、綱引きなどが行われ、会場内は終始笑い声に包まれました。

また、地元住民による祖谷そばやあめごの塩焼きなどのバザーも多く出店し、多くの来場者でにぎわいました。

建築当時の生活を今に 登録有形文化財2件を登録

三好市内の建造物2件がこの春、国の登録有形文化財に登録されました。登録された建造物は、栗本家住宅と中山家住宅で、10月1日に所有者へ竹内教育長より登録プレートが手渡されました。

栗本家住宅は、東祖谷釣井地区に位置し、国の重要文化財である木村家の北西隣に建っています。建物は江戸末期に建てられた木造平屋建て寄棟造りの茅葺(波板鉄板包み)で、外観は増築部分以外に大きな改変はなく屋敷構えと併せて祖谷地方の民家の特徴を見ることができます。

中山家住宅は、東祖谷久保地区にあり国道439号線久保バス停より山側に入り毘沙門堂の東側の山腹に位置しています。建物は大正期に建てられた木造平屋建て寄棟造りの茅葺(波板鉄板包み)で、平成29年に改修工事を行い、平成30年4月から古民家やど紺屋一こうやとして活用されています。今回の登録で、市内の登録有形文化財(建造物)は合計45件になりました。



登録有形文化財
栗本家住宅(東祖谷釣井)



登録有形文化財
中山家住宅(東祖谷久保)